

柴原瑛菜が復帰戦で ダブルス優勝！

今年4月の大会を最後に、負傷でツアーを離れていた柴原瑛菜が、トルコ・イスタンブールで開催された『エンカオープン』（7月13日～19日／WTA125）にダブルスで出場し、見事復帰戦で優勝を果たした。パートナーは元世界2位のベラ・ズボナレワで、現在41歳のベテラン選手。柴原／ズボナレワ組は、準決勝・決勝とも、10ポイントタイブレークの接戦を制してのタイトル獲得となった。

柴原は「復帰戦となったWTA125で優勝という結果を残すことができ、とても嬉しく思っています。怪我で思うようにプレーできない期間もありましたが、橋本総業の皆様をはじめ、多くの方々に温かく支えていただいたおかげで、この舞台に戻ってくることができました。心より感謝しております。まだ完全な状態ではありませんが、この優勝を自信に、一歩ずつ前へ進みながら、さらに上を目指して頑張っていきます。これからも応援のほど、よろしくお願いいたします」と、復帰戦の勝利を喜んだ。現在の柴原はダブルス世界ランク72位、シングルスは481位。身体を万全にして再び浮上することが期待される。

「この優勝を自信に、
一歩ずつ前へ」



元世界2位のズボナレワと組み優勝した柴原



ゴルフの プロテストが進行中

2026年度プロテスト第1次予選が7月からスタート。6会場のうち、5会場での1次予選はすでに終了している。A地区に出場した播磨知優は、38位タイで惜しくも2次予選通過を逃し、C地区に出場した山本真生も52位タイで1次予選突破とはならなかった。

小島彩夏は7月28日～30日に兵庫県・小野東洋ゴルフ倶楽部で開催される、E地区の予選に出場を予定している。



コーチのプロに聞く コーチングの極意

部下が思うように仕事をしてくれない。
意思の疎通が難しい。年齢差を感じるなどと思ったことはないだろうか？
コーチングのプロであるコーチ・監督陣に、指導で気を付けていることを聞いた。
部下と接する際のヒントにしてほしい。

今回の指導者



井上 明里 監督

Akari Inoue

PROFILE

橋本総業女子監督。全日本選手権ダブルス、混合で準優勝。国際大会で18タイトルを獲得。引退後は、小中学校の部活や、地域スポーツクラブで指導している。(公財)日本スポーツ協会公認コーチ3

改善方法は本人に選ばせた方が やろうという意思が出てくる

——負けた選手に話す時に気をつけてることはありますか？

井上 感情的にならずに事実だけを伝えて、改善しようと本人に思わせられるところまで持っていけるように心掛けています。若い子たちは結構心が折れやすいので、できるだけ良い部分と悪い部分の話をして、「こういうことをすればいいのでは？」という提案をします。どの改善方法にするかは本人に決めさせます。その方がやろうという意思が出てくるので。こちらから提示すると、「それは得になるんですか？」と損得で考えがちです。こちらからは提案をして、本人に選ばせ、選択したことについては全力でサポートします。

——勝った選手にはどんな内容を話しますか？

井上 一緒ですね。良かった点、悪かった点などの事実を伝えて、次の目標を明確にさせていく。達成感を多少味わいつつやれるので、自立を促せるかなというイメージです。

——選手の性格によってアプローチを変えていますか？

井上 全然違います。きつく言っても大丈夫な子もいれば、もうひたすら褒める子もいます。プッシュするべきか、励ますだけなのかは、状況によって変わってくるので、その選手が今どういう状況かは聞くようにしてます。あとは、コミュニ

ケーションですね。信頼関係がないと話も聞いてくれないので。特に女性はその日によって違うため、声かけをして、このリアクションだと「今は駄目だな」「いけるな」など、判断して対応を変えています。

——やる気が下がってる選手には、どうやっていい方向に導くようにしていますか？

井上 うーん、難しい。私もやる気ない時はあるので。ただ、やらせることですね。とりあえずやらせておいて、何かのきっかけでできた時にちょっと褒める。そして、「次はもっとこ



「一緒に走りつつ、
自走できるところまで
サポートできたらいい」

れもできるかもね」と、少し誘導する感じです。やる気を無理やり上げる必要はないと思っています。

——プロ1年目の選手を指導するときに心掛けてることは？

井上 本人に必要なことを明確に伝えることです。あんまり多くは言いません。聞かれたらしっかり答えますが、そうでなければ必要なことだけまず言います。本人が目指すべきところがあるのなら、道筋の提案はします。でもプロなので、やるかやらないかは本人に任せます。

——コーチする上でのポリシーや決めていることは？

井上 私は自分に関わる人が幸せになればいいと思っているので、それがポリシーですね。人って成長すると結構楽しくて、それもまた喜びだと思うので、成長するのを一緒に伴走できるような指導は心掛けています。「ついてこい」だと、今の子どもたちは絶対ついてこないなので、一緒に走りつつ、自走できるところまでサポートできたらいいなと思っています。

コーチングの ポイント

- ✓ 改善方法は本人に選ばせる
- ✓ 相手の性格・状況を見極める
- ✓ 自走できるまで一緒に伴走する

HASHIMOTO SOGYO COMMUNICATION

team *hal* Magazine

2026.08 VOL.32

発行：橋本総業ホールディングス株式会社
編集：Tennis.jp
デザイン：鷲見善弘（こうぼく堂）

●本誌掲載の記事・写真などすべての無断転載、複写を禁じます。



「声かけをして、
リアクションで判断して
対応を変えています」